

2021 年度 事業報告書

(第 29 期)



学校法人 広島信望愛学園

I. 法人の概要

(1) 基本情報

①法人の名称

学校法人広島信望愛学園

②主たる事務所

住 所 広島県広島市中区幟町4番42号

電話番号 082-502-7350

FAX 番号 082-502-7351

HP URL <https://www.hiroshima-shinboai.ed.jp>

(2) 建学の精神

学校法人広島信望愛学園は、平成5年に母体であるカトリック広島司教区より独立し設立された法人で、キリスト教カトリックの精神に基づいて、幼稚園教育を行っています。

- ・イエス・キリストの福音に基づき「信仰」と「希望」と「愛」を以って幼児教育に貢献する
- ・園児、保護者、教職員、家庭、地域社会に福音的価値をもたらす
- ・イエス・キリストの福音に基づく、園児と教職員の喜びが学園の発展の源である
- ・イエス・キリストの福音の中で働く人が誇りをもって、平和な生活を永続できる学園にする

(3) 学校法人の沿革

区分	年月日	沿 革
宗教法人立時代	1941 年	聖母幼稚園（広島市中区幟町）開園
	1953 年	広島暁の星幼稚園（広島市西区観音町）開園
	1954 年	聖園幼稚園（福山市昭和町）開園
	1955 年	尾道清心幼稚園（尾道市栗原東）開園
	1962 年	三次清心幼稚園（三次市十日市中）開園
	1965 年	広島マリア幼稚園（広島市南区翠町）開園
学校法人設立後	1993 年 3 月 26 日	6 園を統合して、学校法人広島信望愛学園設立（学校法人へ改組） 初代理事長 三末篤實 司教
	1998 年	三次清心幼稚園園舎改築
	2000 年	聖園幼稚園園舎改築（福山教会と合築）
	2005 年	広島マリア幼稚園園舎改築
	2006 年	広島暁の星幼稚園園舎一部増改築
	2012 年	聖母幼稚園園舎改築
	3 月 24 日	第二代理事長 前田万葉 司教（現枢機卿・大阪大司教区大司教）就任
	2015 年 6 月 1 日	第三代理事長 斎藤眞仁 司祭 就任
	2017 年 3 月 26 日	第四代理事長 白浜満 司教 就任
	2018 年 9 月 28 日	広島市西区観音町 15・28 土地・建物取得（購入）
	2019 年 8 月	広島暁の星幼稚園園舎一部耐震化
	2020 年 3 月 14 日	尾道清心幼稚園園舎改築竣工
	2020 年 4 月 1 日	尾道清心幼稚園認定こども園（幼稚園型）へ移行
	2021 年 2 月 1 日	広島市西区観音町 15・55 土地取得（土地交換）

(4) 設置する幼稚園及び園児数の状況 (2021 年 5 月 1 日現在)

幼稚園名	入園定員	入園者数	収容定員	現員数	
聖母幼稚園 (広島市中区幟町 4-42)	60	31	200	151	
広島マリア幼稚園 (広島市南区翠 5-9-29)	30	30	100	87	
広島暁の星幼稚園 (広島市西区観音町 15-31)	60	36	180	176	
認定こども園 (幼稚園型) 尾道清心幼稚園 (尾道市栗原東 1-12-1)	56	13	128	94	
聖園幼稚園 (福山市昭和町 7-26)	30	10	100	67	
三次清心幼稚園 (三次市十日市中 2-1-43)	30	13	100	38	定員充足率
合計	266	133	808	608	75.24%

(5) 収容定員充足率 (百分率、毎年 5 月 1 日現在)

幼稚園名	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
聖母幼稚園	88.5	90.5	81.5	81.0	75.5
広島マリア幼稚園	102.0	112.0	103.0	96.0	87.0
広島暁の星幼稚園	112.7	109.4	107.2	107.2	97.7
尾道清心幼稚園	76.0	87.0	91.0	70.3	73.4
聖園幼稚園	73.0	82.0	74.0	73.0	67.0
三次清心幼稚園	26.0	31.0	40.0	25.0	38.0

(6) 役員の概要（定員：理事7名 監事2名、就任年月日は新任又は重任日）（決算年度3月31日現在）

役 職	氏 名	就任年月日	勤・怠の別	学園での主な現職等
理 事 長	白 浜 満	2020年3月28日	非常勤	
常務理事	服 部 大介	2020年3月28日	常 勤	尾道清心幼稚園 園長
理 事	荻 喜代治	2020年3月28日	常 勤	聖母幼稚園 園長
	瀧 井 英昭	2020年3月28日	常 勤	広島暁の星幼稚園 園長
外部理事	野 中 泉	2020年3月28日	非常勤	
	山 根 敏身	2020年3月28日	非常勤	
	李 相源	2021年4月1日	非常勤	
監 事	青 葉 憲明	2020年3月28日	非常勤	
	栗 屋 充博	2020年3月28日	非常勤	

理事会

回数	開催日	主な議題
第1回	2021年05月29日	事業報告、決算（計算書類）、人事異動、規程改正
第2回	2021年09月29日	園児募集、人事異動、園則変更、規程改正、新制度移行
第3回	2021年11月30日	中間決算、人事異動、処遇改善
第4回	2022年01月26日	人事異動、規程改正、法人合併、派遣理事選任、出向契約
第5回	2022年03月30日	補正予算、人事異動、事業計画、予算、法人合併、規程改正

(7) 評議員の概要（定員：15名、就任年月日は新任又は重任日）（決算年度3月31日現在）

選任基準	氏 名	就任年月日	学園での主な現職等
第1号（職員）	長谷川 祐子	2020年3月28日	尾道清心幼稚園 副園長 聖 園幼稚園 副園長
	馬 越 貴美子	2020年3月28日	聖園幼稚園 主任教員
第2号（卒園者）	荻 喜代治	2020年3月28日	理事・聖母幼稚園 園長
	服 部 大介	2020年3月28日	常務理事・尾道清心幼稚園 園長
第3号（学識経験者）	ベッラ アルベルト	2020年3月28日	広島マリア幼稚園 園長
	島 田 美城	2020年3月28日	
	白 浜 満	2020年3月28日	理事長
	野 中 泉	2020年3月28日	外部理事
	原 田 豊己	2020年3月28日	
	廣 野 豊満	2020年3月28日	
	山 根 敏身	2020年3月28日	外部理事
	金 起煥	2020年3月28日	三次清心幼稚園 園長
	瀧 井 英昭	2020年3月28日	理事・広島暁の星幼稚園 園長
	田 中 靖	2020年3月28日	
	李 相源	2021年4月1日	外部理事

評議員会

回数	開催日	主な議題
第1回	2021年5月29日	事業報告、決算（計算書類）、園則変更
第2回	2021年9月27日	園則変更
第3回	2022年3月30日	補正予算、事業計画、予算、法人合併

(8) 教職員数の概要 (2021 年 5 月 1 日現在)

	教員					職員		
	園長	副園長	正勤	パート	計	正勤	パート	計
聖母幼稚園	—※	0	10	9	19	0	1	1
広島マリア幼稚園	1	0	7	3	11	0	1	1
広島暁の星幼稚園	—※	0	11	4	15	0	2	2
尾道清心幼稚園	—※	1(注)	6	8	15	0	7	7
聖園幼稚園	1	(注)	5	6	12	1	0	1
三次清心幼稚園	1	0	2	4	7	0	2	2
法人本部事務局						1	2	3
計	3	1	41	34	79	2	15	17

※役員兼務者除く

注) 尾道清心幼稚園・聖園幼稚園の副園長兼務

園長・副園長

聖母幼稚園	荻 喜代治
広島マリア幼稚園	ベッラ アルベルト
広島暁の星幼稚園	瀧井 英昭
尾道清心幼稚園	服部 大介・長谷川 祐子
聖園幼稚園	猪口 大記・長谷川 祐子
三次清心幼稚園	金 起煥

Ⅱ. 事業の概要

(1) 今年度の事業の概要

幼稚園事業としまして、教育・保育の対象となる園児数が前年度より 34 名（5 月 1 日現在）減少しました。

また新型コロナウイルス感染症の流行の継続を受け、通常保育の他の行事縮小や分散開催などを実施しました。しかしそのような中、教育として、各園の教育方針に基づきカトリック系の幼稚園を念頭に季節ごと宗教的な行事を感染に注意しながら保育に盛り込み、宗教・道徳的視点からの教育について積極的に実施いたしました。

また、保育等を充実するために各園の当初の事業計画のとおり、おおむね実施しました。さらに保育者である教職員の能力向上を目的とした各種研修を園内研修やオンライン研修形式を中心に実施しました。

なお、保護者と幼稚園、保護者同士、地域との関わり深めるために例年実施していたバザー、運動会、遠足、保護者のサークル・研究会活動や講演会は、規模を縮小して実施又は中止しました。

つぎに施設・設備拡張事業としまして、下記のとおり固定資産を新規導入・更新等を行いました。

部門名	主な固定資産名等
聖母幼稚園	機器備品 ノートパソコン
広島マリア幼稚園	機器備品 園児用椅子、朝礼台、パソコン
広島暁の星幼稚園	機器備品 園児用椅子、ノートパソコン、電話設備更新 車 両 ドライブレコーダー
尾道清心幼稚園	機器備品 パソコン ソフトウェア 園務支援システム
聖園幼稚園	建 物 エアコン 構 築 物 日よけネット用支柱 機器備品 園児用机、園児用椅子、ゴムマット、日よけネット、洗濯機他 ソフトウェア 園務支援システム
三次清心幼稚園	建 物 エアコン
本部事務局	機器備品 ノートパソコン

(2) 今年度の主な事業の目的・計画及び進捗状況

別紙、幼稚園評価参照

Ⅲ 財務の概要

(1) 決算概要

①貸借対照表の状況

有形固定資産は、Ⅱ．事業の概要で示したように施設・設備を 4,867 千円取得しましたが資産を 44,408 千円減価償却した結果、前年度より 39,633 千円減少しました。

特定資産は、減価償却額の相当額及び第 2 号基本金繰入額の相当額を繰り入れたことから前年度より 48,880 千円増加しました。

その他の固定資産は、園務支援システムを尾道清心幼稚園及び聖園幼稚園へ導入したことによりソフトウェアが 1,012 千円増加したこと及び長期貸付金が 1,472 千円増加しました。

流動資産は、現預金が 37,803 千円増加しました。また広島県教育支援体制整備補助金をはじめ、各市町からの 3 月分及び精算給付金等を未収入金計上しました。つぎに貯蔵品は教材、消耗品、制服・用品の在庫を計上しており、前払金は次年度の保険料です。そして仮払金の計上は主に研修費です。

長期借入金は、計画とおり 10,000 千円償還しました。

流動負債では、未払金の主な残高は私学共済掛金（園負担）と仮受消費税です。預り金の主な残高も私学共済掛金（個人負担）です。

基本金は、有形固定資産の取得や借入金の返済等により 15,093 千円増加しました。なお、第 4 号基本金は、その基本金に相当する資金 32,000 千円を有しているため設定していません。

②収支計算書の状況

ア) 事業活動収支計算書

当年度の教育活動収入は 498,635 千円となり、前年度に比べ 29,970 千円の増収となりました。その主な原因について、園児数の減少による学生生徒納付金が 6,799 千円減収しましたが、広島県からの教育支援体制等補助金等や認定こども園の保育児増加に伴い経常費等補助金が 21,415 千円増収したこと、補助活動の正常化により 6,763 千円の増収及び退職手当資金等の雑収入 7,936 千円の増収があったことです。

一方、教育活動支出は 439,474 千円となり、前年度に比べ 10,578 千円の増加となりました。その主な原因は教職員の増員と処遇改善による人件費の増加です。なお、経費は昨年建物解体費（報償費）がありましたが本年は特別多額な経費は発生せず 5,453 千円減少しました。

特別収入は 1,939 千円となりました。その主な原因は ICT 化支援としての教育支援体制整備事業補助金 1,138 千円及び高齢者雇用助成金 566 千円が国県から交付されたことです。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は 61,009 千円の収入超となりました。

イ) 資金収支計算書

当年度の施設関係支出は建物支出 704 千円、構築物支出 630 千円となりました。また設備関係支出は教育研究用機器備品支出 841 千円、管理用機器備品支出 2,162 千円、図書支出 220 千円、車両支出 74 千円及びソフトウェア支出 1,012 千円となりました。

(2) 経年比較

①貸借対照表

(単位：千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	本年度
固定資産	3,120,722	3,480,014	3,343,713	3,451,617	3,463,721
流動資産	161,018	266,257	261,526	173,140	213,408
資産の部合計	3,281,740	3,746,271	3,605,240	3,624,758	3,677,130
固定負債	0	90,000	80,000	70,000	60,000
流動負債	14,541	257,628	16,640	15,585	16,576
負債の部合計	14,541	347,628	96,640	85,585	76,576
基本金	3,016,901	3,043,903	3,319,494	3,325,615	3,340,396
繰越収支差額	250,297	354,739	189,105	213,557	260,156
純資産の合計	3,267,199	3,398,643	3,508,599	3,539,172	3,600,553
負債及び純資産の部合計	3,281,740	3,746,271	3,605,240	3,624,758	3,677,130

※千円未満切捨て（以下同様）

<参考>

(単位：千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	本年度
基本金要組入額	3,016,901	3,371,102	3,409,494	3,405,615	3,295,619

②収支計算書

ア) 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	本年度
学生生徒等納付金収入	207,532	210,801	203,332	189,413	182,614
手数料収入	1,313	1,172	999	1,000	894
寄付金収入	2,768	3,935	9,717	5,654	6,524
補助金収入	230,482	336,456	312,866	219,624	242,248
資産売却収入	0	216	0	0	0
付随事業・収益事業収入	56,103	56,709	54,101	49,089	55,852
受取利息・配当金収入	1,928	92	73	20	1
雑収入	9,640	8,122	16,933	3,557	12,060
借入金等収入	0	100,000	0	0	0
前受金収入	10,045	9,106	44	167	117
その他の収入	99,264	399,293	591,945	208,729	105,583
資金収入調整勘定	△ 17,205	△ 111,698	△ 116,752	△ 6,713	△ 8,530
前年度繰越支払資金	127,581	146,844	159,845	148,631	160,822
収入の部合計	729,454	1,161,051	1,233,107	819,175	758,187

支出の部	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	本年度
人件費支出	260,318	270,666	284,994	274,763	290,513
経費支出	172,944	185,647	158,836	109,216	105,297
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	10,000	10,000	10,000
施設関係支出	785	347,787	190,077	4,195	1,334
設備関係支出	7,966	11,250	35,316	5,576	4,310
資産運用支出	47,052	37,248	33,838	150,636	48,921
その他の支出	96,661	385,492	376,161	107,532	104,575
資金支出調整勘定	△ 3,118	△ 236,886	△ 4,748	△ 3,565	△ 5,309
翌年度繰越支払資金	146,844	159,845	148,631	160,822	198,625
支出の部合計	729,454	1,161,051	1,233,107	819,175	758,187

イ) 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科 目		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	本年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒納付金	207,532	210,801	203,332	189,413	182,614
	手数料	1,313	1,172	999	1,000	894
	寄附金	3,423	4,179	9,929	5,909	6,670
	経常費等補助金	230,482	234,807	205,765	219,695	241,110
	付随事業収入	56,103	56,709	54,101	49,089	55,852
	雑収入	9,640	8,122	16,933	3,557	11,493
	教育活動収入計	508,495	515,792	491,061	468,665	498,635
	事業活動支出の部					
	人件費	260,318	270,666	284,994	274,763	290,513
	経費	203,450	215,654	188,541	154,133	148,961
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	463,768	486,320	473,536	428,896	439,474
	教育活動収支差額	44,727	29,472	17,525	39,768	59,160
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	1,928	92	73	20	1
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	1,928	92	73	20	1
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	1,928	92	73	20	1
	経常収支差額	46,655	29,564	17,598	39,789	59,162
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	215	0	0	0
	その他の特別収入	850	102,368	108,025	462	1,939
	特別収入計	850	102,584	108,025	462	1,939
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	9	704	15,668	9,307	91
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	9	704	15,668	9,307	91
	特別収支差額	840	101,879	92,357	△ 8,844	1,847
	基本金組入前当年度収支差額	47,495	131,444	109,955	30,944	61,009
	基本金組入額合計	△ 23,071	△ 27,002	△ 275,590	△ 5,809	△ 15,093
	当年度収支差額	24,424	104,441	△ 165,634	25,135	45,916
前年度繰越収支差額		225,873	250,297	354,739	189,105	214,240
基本金取崩額		0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額		250,297	354,739	189,105	214,240	260,156
(参考)						
事業活動収入計		511,274	618,468	599,160	469,149	500,576
事業活動支出計		463,778	487,024	489,204	438,204	439,566

(3) 主な財務比率比較

(単位：％)

比率名	算式	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	本年度
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入計	9.29	21.25	18.35	6.60	12.19
基本金組入後収支比率	事業活動支出／（事業活動収入計－基本金組入額）	95.00	82.34	151.19	94.58	90.54
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金／經常収入	40.66	40.86	41.40	40.41	36.62
人件費比率	人件費／經常収入	51.00	52.47	58.03	58.62	58.26
経費比率	経費／經常収入	39.86	41.80	38.39	32.89	29.87
流動比率	流動資産／流動負債	1107.34	103.35	1571.67	1110.94	1287.45
負債比率	総負債／純資産	0.45	10.23	2.75	2.42	2.13
純資産構成比率	純資産／（負債＋純資産）	99.56	90.72	97.32	97.64	97.92
基本金比率	基本金／基本金要組入額	100.00	90.29	97.36	97.65	101.36

(4) その他

①借入金の状況

借入先	借入残高	利率	返済期限	備考
カトリック広島司教区	70,000 千円	－	令和 11 年 3 月	

②寄付金の状況

寄付金の種類	金額	摘要
使途指定の寄付金	740 千円	卒園記念として教育機器備品等
一般寄付金	5,783 千円	教育経費に充当
現物寄付	146 千円	図書、教育用品等

③関連当事者等との取引状況

法人等の名称	事業内容	取引の内容	摘要
カトリック広島司教区 ※理事 5 名が責任役員を兼務	布教活動	不動産の無償使用貸借	土地
		不動産の賃貸借 8,426 千円	建物
		土地購入資金の借入 70,000 千円	
旭調温工業株式会社 ※監事 1 名が代表取締役を兼務	空調設備製造設計施工	空調設備の洗浄 1,075 千円	

以上、第 29 期における当学園の事業報告です。

最後に、園児を第一に考え、園児教育・保育、保護者や地域住民への子育て支援、教職員の能力向上、教育・保育に必要な施設設備・機器備品資産の取得更新を考え、計画的に幼稚園運営を進めていきますので、ご指導よろしくお願い申し上げます。

別紙、幼稚園評価

2021 年度 幼稚園評価（重点目標に対する評価）

●教育方針	
・キリスト教の精神である愛の心に基づき祈りの心、神の恵みを感じとれる教育、感謝と一致の心で仲良くできる相互愛を伝える教育を目指します。 ・モンテッソーリ教育をより一層深め、3・4・5 歳児の縦割保育の良さを生かし、幼児同士が互いに大切に思う心を強め、教師は一人ひとりの幼児が自ら成長していく力を信頼し、幼児の自己実現に向かわせる。	
●教育目標	
・神様の話を聞いたり、祈ったりしながら人を大切にする心、感謝の心、許す心、譲る心、謝る心、平和な心を伝える。 ・縦割保育を通して、幼児相互のよい関わり合いを育てていく。 ・モンテッソーリ教育など、教師間で互いに話し合う時間を持ち、疑問や日頃感じていることを分かち合い、日々の保育に生かし深めていく。	
評価項目の達成及び取組状況	I 教育内容
	・モンテッソーリ教育の充実と実践を通してモンテッソーリ教育を深めていきながら、子ども一人一人の歩みに合わせ成長を見守っている。 ・保育の環境設定を工夫し、子どもの興味能力に合わせて教具を整えている。 ・モンテッソーリ以外の研修会等にも積極的に参加し、園内研修を通して分かち合いで深め、共通意識をもつ。
	II 地域の幼児教育センターとしての役割
	・未就園児の親子登園が楽しめるように、保育内容の充実を目指し、2 日続き、お弁当持参など工夫する。 ・保護者の理解を深めて頂くためにも話し合いを充実させる。 ・園庭開放に代わる親子体操を取り入れ幼児体育にも意識を向ける。 ・教育相談は必要に応じて専門機関に相談ができる体制がある。 ・預かり保育については、保育終了後の時間に利用できるよう時間と場所を確保している。長期休暇中も予め参加者を募り参加時間に合わせた料金設定がある。 ・家庭的な雰囲気の中で、学年、クラスの枠を超えて子どもたちは交わっている。
	III 保健安全管理
	・園児、職員の健康診断。 ・職員の予防接種の実施。 ・水質検査（飲み水）、照明点検、砂場の点検 ・マスク着用の上、園生活を送るよう保護者に理解を求めご協力いただいたこともあってインフルエンザの流行、コロナクラスターの発生を防ぐことが出来た。 ・手洗い、消毒を徹底し食事には一人ずつパーテーションをたてて予防に努めた

	・食事の指導に関してはなるべく黙食とした。 ・コロナに関して、園生活、家庭生活について園児に対応を伝えた。 ・安全点検においては常に留意し、子どもが遊ぶときに併せて遊具をチェックするように心がける。修理、補修についても同様。 ・園内での移動は歩くよう約束をしている。 ・防災訓練は子ども達にとって火災と地震に分けて対応している。 ・交通安全教室は年長児のみだが、園バス、徒歩、車で登降園しているのでそれぞれの安全指導をしている。 ・正門の施錠チェックを徹底するように意識改革をした。
	IV 人事管理
	・教職員の健康管理に留意する。 ・園長と職員のコミュニケーションを職員会議以外にも十分にとり、個人面接を実施している。 ・担任とフリー職員の意思疎通、連携、共通意識を持てるようにしている。 ・職員が研修等参加しての報告と分かち合いを通して自己研鑽に努め、共通意識を育てている。
	V 財務管理（予算管理）
	予算計画については、保育に必要なものと、環境を整えるものを考慮している。
●総合的な評価	
・事業計画についてはコロナ対応で行事も分散保育になったことが多く、残念に思うこともあったが、あきらめずにできる形を追求して行ったことは保護者からも賛同をいただいた。 ・子どもを中心に、職員が一致して取り組む姿勢が、年間を通しておおむね達成することが出来た。 ・学園内の園と相談や情報交換をすることでの連携もとることが出来た。	
●今後の取り組む課題	
・保健安全管理については引き続き丁寧に取り組み、特に保護者、子どもの出入りについては注意して見守る。 ・災害時の対応ができるように子どもたちの命を守っていききたい。	

以上

2021 年度 幼稚園評価（重点目標に対する評価）

●教育方針	
	キリスト教精神に基づいた幼児教育
	一人一人が神から愛されているものである事を知り、神の慈しみをより多くの人と分かち合える人間形成を目指す
	・基本的生活習慣を身につける
	・一人ひとりを大切にし、意欲を持つ子を育てる
	・個性を伸ばし、差別のない愛の心を育てる
	・人々の中で、人々と共に愛の実践を生きる子どもを育てる
	・神と人の愛、自然の美しさを感じる心を育てる
●教育目標	
	・モンテッソーリ教育の充実
	・生活に見通しをもち、自分でできることに喜びをもって身の回りのことができるようする。
	・様々な体験・経験を通して、自信を持って活動し、自由に表現する力を養う。
評価項目の達成及び取組状況	I 教育内容
	・カトリック幼稚園として、日々の生活の中で周りの人たちや世界の人たちに目を向け祈り、思いやりの心を育むことを大切にした。 ・教職員全体で幼児の発達に必要な保育内容を考えながら計画・実行した。 ・幼児が一人ひとりの興味・関心に応じて活動できるような環境を整えることができた。
	II 地域の幼児教育センターとしての役割
	・ホームページの更新を行った。 ・2022 年度からの満 3 歳児入園に向けて、未就園児教室の満 2 歳児入会を開始し、充実を図った。 ・毎日の降園時に、保護者の方へ園の様子を伝え、必要に応じて相談に応じる時間をとった。 ・預かり保育を実施した。
	III 保健安全管理
	・園児・職員の健康診断や園児の保健・食事指導を実施した。 ・施設の衛生管理や安全点検を定期的に行い、必要な修理・補修を行った。 ・交通安全や災害安全教育を定期的実施した。 ・事故を未然に防ぐよう、職員が意識して保育にあたり、事故等が発生した場合は、被害が最小限になるよう対処した。事故後は状況・原因を把握し、再発に努めた。

	IV 人事管理
	・毎日、学期ごとの反省会で、自分自身の保育を振り返り、自己評価を行い、職員の資質向上に努めた。
	V 財務管理（予算管理）
	・事業計画書・予算書に基づき、予算管理を行うことができた。
●総合的な評価	
・当初に計画した目標及び評価項目について、おおむね達成することができた。	
●今後の取り組む課題	
・今後も、安全に気を付けながら、幼児一人ひとりの発達に応じて保育を計画、実施することに職員全体で取り組んでいきたい。	

2021 年度 幼稚園評価（重点目標に対する評価）

●教育方針	
評価項目の達成及び取組状況	・キリスト教の人間観に基づき紙から与えられたひとり一人のユニークな生命、個性を大切にし集団生活を通して、その可能性をより豊かに開花させることを目的とする。 特に人間形成に主眼をおき「強いところと強いからだ」をモットーに心身のバランスのとれた発達を目指す。 ・自主性に富み正しい判断力、強い意志力、忍耐力を養い、情緒豊かな感受性と心をもつことができるよう幼児と教師、家庭がいったいとなって取り組む。
	●教育目標
	・遊びの中で友だちと共に、発見し感動し自立していく子どもを育てる。 ～神の愛の中で、自分も友だちも大切に生きていく子ども～
	I 教育内容
	コロナ禍で人との距離を保ちながら関わる園生活だったが、こども一人ひとりの発達や様子に合わせて職員間で協力しながら保育を行う事ができた。職員間で細かく連絡を取りながら情報共有をし、一人ひとりが楽しめる保育内容を考え日々の保育に活かすことができた。遊びを通して学ぶ保育内容の見直しや研究を今後も続けていく必要がある。 保育室の環境を子どもたちの様子を見て変え、発達に応じて教材を用意、提供し、個別の配慮が必要な園児に対して幼稚園でできる環境整備の工夫を行った。 カトリック幼稚園として、神様が伝えようとしたことを職員が理解し、日々の保育につなげるよう努めた。
	II 地域の幼児教育センターとしての役割
	コロナの為未就園児行事(園庭開放、親子教室)が中止になることが多かったが、行えた時には参加した親子と丁寧にかかわり、子育て相談や幼稚園に対しての質問等に対して真摯に向きあった。 子育てに悩む保護者や園で気になる園児の保護者と個別に時間を取り、話し合いの時間を設け、園と家庭で連携を取りながら保育を行った。 就労している保護者が多いため、預かり保育利用者が多かった。そのため年間を通じて担当職員以外の教師が補助に入った。コロナ禍の中でも保護者が預け先に困ることがないように可能な限り預かり保育を行った。
	III 保健安全管理
	毎日、園庭、遊具、園舎内の安全確認を行い、修繕が必要な箇所が発生した場合は速やかに修繕をおこない安全管理に努めた。また、定期的に安全点検を行い、危険箇所の確認や共通認識をした。普段は使用しない門についても危険を感じたため教会に協力していただき鍵を付けた。

	園児健康診断はコロナ禍の検診となるため、安心して行えるよう園医と相談の上、感染防止対策をして行った。教職員は健康診断を受け、日々の健康管理も徹底して行った。 全職員が統一した方法で感染防止対策を継続して行い、こどもたちが使用するところは、こまめに消毒を行った。手洗いの指導、マスクの着用、人との距離感、黙食等、感染症対策を子どもたちに伝え、子どもたちも年齢なりに出来るところは行うことができた。 毎月、避難訓練の中から一つずつ行い(火災、地震、防犯) 緊急時に教師の指示に従い速やかに避難することができるようになった。継続して伝えていくことで、放送がかかると動きを止め、耳を傾けることが身についた。避難訓練後には振り返りを行い子ども達への指導、マニュアルの見直し等を行った。 スクールバス乗務中の緊急時対応、マニュアルを職員で確認し責任をもってバスに乗務した。子どもたちにも約束を伝え安全に運行できた。
	IV 人事管理
	短時間職員と正職員とで子ども達の情報を伝え合い、連携をとることができた。困ったことや、自分の考えを伝えることができる場や関係、雰囲気を作り、意思の疎通をはかることができた。管理職(園長)との面談の際は思っていることを素直に話しコミュニケーションをはかることができた。 職員間で声を出し合い、職場の雰囲気と仕事の効率化、働き方改革について意識して行うようになったが、職員の人数に厳しいものがあり、日々の保育に精一杯になってしまうこともあった。
	V 財務管理 (予算管理)
	事業計画・予算書に基づいた予算執行について、十分取り組むことができた。
●総合的な評価	
目標、評価項目の達成にむけて職員全体で取り組むことができた。コロナ禍のために、未就園児行事や園行事の変更や中止をせざるを得ないことも度々あったが、職員全員で今できる最善の方法を話し合い、工夫し行った。	
●今後の取り組む課題	
無償化、少子化に伴い園児数の減少がみられる。今までは保護者の口コミで暁の星を選ぶ方が多かったが、コロナ禍で園選びの際に在園児から園の評判を聞く機会が圧倒的に少なくなった。親子教室、園庭開放等で園に足を運び興味を持ってもらえるよう広報活動を行っていく。	

以上

2021 年度 幼稚園評価（重点目標に対する評価）

●教育方針	
・カトリックの精神に基づいて、個性を尊重しかけがえのない幼児期をモンテッソーリ教育により一人ひとりを大切に子どもの成長に合わせた教育を行う。	
●教育目標	
・モンテッソーリ教育を充実させ、お仕事の楽しさを伝え、子どもたちが色々な活動に興味を持って意欲的に取り組む。	
評価項目の達成及び取組状況	I 教育内容
	・モンテッソーリ教育を充実させて深めていく。
	II 地域の幼児教育センターとしての役割
	・未就園児教室を充実させる予定でしたが、コロナウイルス感染症対策の為中止した。
	III 保健安全管理
	・感染症予防対策の徹底が出来た。 ・熱中症予防対策も日除けシェード及びミスト散布等利用して十分に出来た。。
	IV 人事管理
	・職員全員健康診断を受けている。また、積極的に予防接種も受け体調管理に務めている。 ・職員及び非常勤職員全員が管理職との面談等を通してコミュニケーションを図り個々の意見も取り入れる努力をしている。
	V 財務管理（予算管理）
	・法人本部の会計の指導のもと適正な予算内での運営を行っている。
●総合的な評価	
・年度当初の計画は概ね達成することができた。	
●今後の取り組む課題	
・認定こども園への移行に伴い保育児の増加が著しいので人事の強化が課題である。	

以上

2021 年度 幼稚園評価（重点目標に対する評価）

●教育方針	
	全園児を全職員で見守る家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの個性をのびし、深化させることを大切にしています。またキリスト教的精神に基づき、道德教育を基礎として、正しい人生観、真の隣人愛を育て、人間・人格形成の最も重要な時を生かせるようにしています。
	1.すべての人が神様の子どもとして大切な存在であるということ 自分も、そしてお友だちもかけがえのない存在であり、みんなが一人ひとりを大切にする心を育てるように取り組む
	2.少人数・縦割り編成のクラス 目の行き届く中、モンテッソーリ教育を取り入れ、異年齢の子どもたちが、共に生活し基本的な社会性を育てる。また年齢に応じた横割りでの教育も取り入れ、すべての先生がすべての子どもに関わり、教員全員で見守る
	3.保護者の方々と一緒になって育てていくことを基本にする
●教育目標	
	・モンテッソーリのディプロマを取得教員を増員し、モンテッソーリ教育充実の具体的な方法を考え実施する ・幼児教育の早期化に対応し、満 3 歳児入園者のための教室を設置し、月齢による発達の差を吸収しつつ縦割り保育へと導入する新しいシステムを試行する ・担当教員の配置も含めた横割りのあり方、行事のあり方を見直し、効率化することで教育内容を充実させる ・基本的な生活習慣や各学年の生活に関するねらいを具体化し共有することで、各園児に対する教員の個別の関わりを深める
	Ⅰ 教育内容 カトリック教育(講話や行事を通じた倫理・道德教育と人格の涵養を目指す)により、人を大切にする心・友達や他の人に対して思いやりを育むことを重視し大切とした。また、カトリック教育から派生したモンテッソーリ教育の充実をはかり、職員を研修へ派遣し、その他園内研修を月一回程度もうけるなどした。これらを通じた幼児教育により、非認知能力の涵養に努めた。 職員間で幼児教育に関する研究とその共有に努めたが、未だ十分とは言い難い。特に発達を促進するため特別に配慮の必要な幼児への対応については、当該園児の状況の把握、保護者と特別支援担当教員との連携はできているが、具体的な加配教員の配置等は計画準備段階に留まっており、来年度の課題となる。
	Ⅱ 地域の幼児教育センターとしての役割 地域との連携を鑑みた場合、ホームページの更新や、いわゆるドキュメンテーション

	ョンについては、実施が未だ不十分であり、保護者や入園希望者への情報共有に留まっている。 子育て・就労支援の観点から、親子教室(未就園児クラス)と預かり保育に力を入れることができた。特に未就園児クラスに保護者の相談に対応できる経験豊富な教員だけでなく、平常クラス担任を務めている教員を配置し連携・接続を深めた。 預かり保育は、新制度への移行を見据えつつ、安全確保等の観点から担当者だけでなく補助に教員をつけることで、より充実した保育体制の構築に努めることができた。 保護者向けの教育講演会等を実施し、直接の幼児教育に留まらず、ペアレント・トレーニングの観点から有益と思われる施策を実施した。
	III 保健安全管理
	平時は保育中に必要な安全管理の徹底に心がけ、事故は発生しなかった。 設備面でも細かく見直し改修を実施し、フェンス・マーカー等を活用して園児に注意喚起するなどし、より衝突や転倒による軽微な事故の発生も少なくなるよう配慮した。 平時のバスの乗り降り等の機会に加え、園外保育や遠足等の行事の機会に、事前に楽しみながら交通法規等に触れ、事故に遭遇しないよう配慮した。
	IV 人事管理
	新制度を見越して職員の充実を図った。また、職員にコロナ感染の疑いや可能性がある場合には出勤を取りやめ、特別休暇を与えるなど実施し、園内感染の可能性を極力排除することができた。 職員間の相互連絡や報告等については、以前よりも緊密に行うよう教職員に指導し、個業形態ではなくチームとして職務を全うするように努力した。 政府の進める「働き方改革」等を踏まえ、労務管理に心がけ、教職員の側の職務への取り組み方の意識を刷新するよう努めているが、不十分な点もあり、今後の課題である。
	V 財務管理（予算管理）
	保育計画の立案を綿密に行うことで予算を適正に組み、予算外の支出を抑えるよう努力したが、コロナ対策や教職員の退職と補充等、予算算定時の予定外の事態により予算外の支出を余儀なくされたことが多々あった。 ただし、支出の削減よりも幼児教育の質を担保することを優先した結果であり、不要な支出はなくその用途は適正であった。
	●総合的な評価
	教育目標は例年通り達成できている。しかしながらよりよい幼児教育の質を目指し、地域・行政・近隣学校とも連携・接続を強化していくために新制度への意向を目指した努力が今後も必要である。

●今後の取り組む課題

新制度移行と、教職員の人数のみではなく資質も含めた充実。保育計画のより柔軟でありつつ、確固たる理念に基づいた立案。

以上

2021 年度 幼稚園評価（重点目標に対する評価）

●教育方針	
キリスト教の愛の精神を基に、子どもの道德教育に力を入れていく。またそれらが、子どもの生活や心の中に浸透していくように日々祈る心、感謝する心を大切に関わっていく。 ・モンテッソーリ教育を取り入れ、一人ひとりに合わせた教育を行い、集中力や落ち着きを身に付け、自分で考えて行動できるように援助していく。3・4・5 歳児の縦割りクラスで、異年齢が共に過ごし、子ども同士で学んでいくことができるように配慮していく。 ・2 歳児クラスでは、安心して一日を過ごし、日常生活の練習を通して子ども一人ひとりの自立を育てる。	
●教育目標	
・一人ひとりが大切な人であり、自分と同じように他人、物、全てを大切にできるように伝えていく。 ・「ごめんなさい」「ありがとう」「おはようございます」「お願いします」等、誰に対してもはっきりと言えるように伝えていく。 ・園内外の身近な事象に積極的にに関わり、友達と協力することや、自分で考え行動することができるようにする。 ・日常生活や遊びの中で、数量や図形、文字などに親しみ、先生や友達と心を通わせながら様々な経験をし、豊かな感性を育み、表現する喜びを味わうことができるようにする。 ・2 歳児クラスでは子ども一人ひとりの自立を援助し、安心して一日を過ごすことが出来る環境づくりにつとめる。	
評価項目の達成及び取組状況	I 教育内容
	モンテッソーリ教具を使った活動だけでなく日々の生活を通して、一人ひとりの発達に合わせた教育を行う事が出来た。 カトリック教育では、聖書に基づいた紙芝居を見て道德教育を行い、日常生活の中で祈る心や感謝する心を持つ事が出来るように促していった。
	II 地域の幼児教育センターとしての役割
	月 1 回の親子教室、園庭開放を行った。コロナ感染対策で中止になった月もあったが、感染対策を講じて出来る限り行っていった。 日々の保育での出来事や保護者からの相談に対し、園長に報告、教職員での話し合いをもとに丁寧に対応する事ができた。
	III 保健安全管理
	日々の健康管理を徹底することが出来た。 施設設備に対して防犯設備機能が不十分なため、防犯カメラを設置することにした。

	IV 人事管理
	職員間の話し合いを持ち、保育をより良いものにするために努力することが出来た。幼稚園組と2歳児クラスとで連携を図り、満3歳児になって進級するために必要な援助、保育が出来るように話し合っていた。
	V 財務管理（予算管理）
	園児が安全に生活出来るように、園舎や遊具、教具や教材の管理を行った。
●総合的な評価	
教育方針に基づき、教職員が共通意識を持ち保育に携わる事が出来た。日々の保育に追われるのではなく、保育計画を基に子ども達一人ひとりの成長の助けとなる援助が出来るように努力する必要がある。	
●今後の取り組む課題	
研修会に参加し、保育に関する知識を深め、教職員間で分かち合い、共通意識を高め日々の保育に活かしていく事が必要である。	

以上